

一般質問通告表

平成27年第4回始良市議会定例会（12月1日（火） 午前10時開会）

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 森川 和美	1. 犯罪被害者支援について	<p>犯罪被害者とその家族の支援を国と自治体の責務と定めた「犯罪被害者等基本法」の施行から10年が経過している。犯罪に巻き込まれた人や、家族は心身ともに大きく傷つき、日常生活すらままならなくなってしまう場合も少なくない。</p> <p>具体的には、自宅などが犯罪現場となり、引き続き居住が困難な状況の被害者のために、転居費用や家賃補助する制度や、公営住宅へ優先的に入居できる仕組み等があると思う。本市の場合はどのような支援を考えているか。また現在までこのような事例が発生したことがあるか。今年4月1日現在で、見舞金制度、貸付金制度を支援、実施している市区町村は約5パーセント前後との調査結果であるが、本市の今後の考え方を問う。</p>	市長
	2. 高齢者の薬飲み残し対策について	<p>処方された薬を患者が大量に飲み残す「残薬」は75歳以上の在宅高齢者だけで年間約500億円以上に上ると推計されている。残薬の発生は、医療費を圧迫するだけでなく、人の命に密接に関わる問題でもある。厚生労働省の実態調査では2013年度薬を余らせてしまう理由として、「飲み忘れが積み重なった」が約7割。次いで、「新たに別の医薬品が処方された」と「自分で判断して飲むのをやめた」がいずれも約2割という結果になっている。本市の実態は、どのようになっているか。また、このことに対してどのような対</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p data-bbox="395 656 692 734">3. 祝日意義の再認識について</p> <p data-bbox="395 1373 692 1496">4. 少子化社会対策と男性の育休取得率目標について</p>	<p data-bbox="716 226 1284 544">策を講じているか。 厚労省は、残薬自体を減らす取組みとして、複数の病院で処方された薬をまとめて管理し、患者への服薬指導にも取り組む「かかりつけ薬局」の普及を促す方針を打ち出しているが、本市の考え方を問う。</p> <p data-bbox="716 656 1284 1261">戦後の祝日の意義をないがしろにした教育や、ハッピーマンデー制度などにより、祝日が国民にとって、ただの休日ようになってしまっている。本来祝日は、国民がより良き社会、より豊かな生活を築き上げるために、自然への畏敬の念、歴史、文化を尊び、社会や先人、家族などに感謝する日である。祝日の意義を知らないのは子どもたちだけではない。我々大人も、祝日法に定められた意義について問われれば、あやふやなものが多い。教育委員会の見解を問う。</p> <p data-bbox="716 1373 1284 2022">国は2020年度までの少子化対策の指針となる「少子化社会対策大綱」を決定して、各自治体に妻の出産直後に男性の休暇取得率を80パーセントとするなどの数値目標を揚げたほか、3人以上の子どもがいる多子世帯についての負担軽減や若者の結婚支援等を打ち出している。子育て支援では、保育所などでの一時預かりの利用を述べ1,134万人、病気の子どもを預かる病児保育の受入れを述べ150万人と、それぞれ現状の約3倍に拡大する。多子世帯については、第3子以降の保育料を無料とする対象範囲の拡大も検</p>	<p data-bbox="1308 656 1473 734">市 長 教育委員長</p> <p data-bbox="1337 1373 1441 1406">市 長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	3. 校区コミュニティ協議会の活動状況について	<p>議員の質問に対し「仮称地域の交通を考える会」を立ち上げ研究して行く計画と答弁しているが、その経過と結果を示せ。</p> <p>(2) 平成24年第2回定例会の同僚議員の質問のなかで、薩摩川内市を先進地ということで研修したとのことだが、その内容について経過と結果を示せ。</p> <p>(3) 平成26年第2回定例会の同僚議員の質問のなかで、スマートフォンのアプリの活用などが可能ならば関係課機関とも連携して研究して行きたいとの答弁があったが、その後の経過について問う。</p> <p>本年からスタートした校区コミュニティ協議会の活動状況について詳細を示せ。</p>	市 長
3. 小山田邦弘	1. 発達障害者支援について	<p>(1) 本市において現在、発達障害に関する支援を必要とする就学前の子ども、児童生徒の実数と、これまでの推移ならびに今後の予測を示せ。</p> <p>(2) 発達障害者支援法では、児童の発達障害の早期発見のために、市町村は健康診断を行うにあたり十分留意するとともに、児童に対し、継続的な相談を行うよう努め、保護者に対し、医療機関等の紹介、助言を行うこととしているが、本市の対応を問う。</p> <p>(3) 発達障害児が早期の発達支援を受けられることができるよう、発達障害児の保護者に対し、相談、助言その</p>	市 長 教育委員長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>他適切な措置を講じることとされているが、本市の対応を問う。</p> <p>(4) 市町村は保育、放課後児童健全育成事業の利用、地域での生活支援のために適切な配慮、必要な支援等を行うものとする事とされているが、本市での具体的な取り組みを問う。</p> <p>(5) 市町村は発達障害児がその障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるようにするため、適切な教育的支援、支援体制の整備その他の必要な措置を講じるものとする事とされているが、本市での対応を問う。</p>	
4. 湯元 秀誠	1. 中部横断道路の早期の建設を	<p>新市となった直後の平成22年6月議会において「川内・加治木線のバイパス建設」について、始良の山田口から加治木の木田地区の新路線を提言した。市長の答弁では、実現は難しいとのことだった。</p> <p>しかし、数か月後の振興計画に計画が盛り込まれた。合併を協議、推進してきた立場からも、このような大きな一大事業は、市の財政規模が大きくなったことから実現できることで、市民の方々が合併効果を直接感じる象徴となる事業と見る。</p> <p>(1) この事業が総合計画に明記されて5か年が経過しているが、進捗状況の説明を求む。</p> <p>(2) この事業の今後の実施計画の動向と財源の確保はどのような計画で進めるか。</p> <p>(3) 先日の議会と語る会（帖佐小校区）においてもこの事業について、次のような活発な意見が出たが、ど</p>	市 長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 巡回バス等の相互乗り入れと路線整備について</p>	<p>のように考えるか。</p> <p>①民間の開発計画で土地の売買の動きが活発化していることから、早期の事業を進めるべき。</p> <p>②米山、加治木の弥勒までの渋滞はひどくなり、最近では山田口まで渋滞が日常化している。</p> <p>三拾町・鍋倉地区の方々は、出入りに苦慮している。渋滞の解決に取り組んでほしい。</p> <p>③渋滞を避けるのに三拾町の工業団地を通り、帖佐保育所前から米山へ近道をする車が増えている。何らかの規制ができないか。</p> <p>市がバス運行を委託・補助している巡回バス・循環バス・上名地区乗り合いバス・ふるさとバス、また児童・生徒の通学バス、JR バス代替対策事業委託など始良市本支所管巡回バスを除き、旧町時からの事業が引き継がれている。</p> <p>(1) 合併して6年目となり、市の全体像も行政も市民側からも見えるようになってきた。</p> <p>始良地区の方からは「春花までのバスを蒲生方面まで運行できないか。」、蒲生の方からは「乗り継ぎなしで始良市の市役所周辺に買い物、病院に行きたい。」など多くの意見がある。</p> <p>鹿児島市は直営の市営バスがあり、どこからでも目的地へ定額料金で行ける。市の各バス運行事業を総合的に見直し、市民のニーズにあった運行に改正し、地域の振興と福祉の向上を図るべきである。市長の考</p>	<p>市 長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>えを問う。</p> <p>(2) 蒲生の赤仁田のバス停は、乗合の方が有るなしに関わりなくバスの客を乗せ、起伏の激しい林道を往復し、利用者からは長い時間の乗合いで疲れるとの意見がある。</p> <p>一方、木津志側は始良交通のふるさとバスが上脇上まで運行されている。旧町の境を直線距離約600メートル改良することで、赤仁田までのバス運行も可能となる。この区間は以前、1人暮らしの女性の方が誰も気づかないまま火災で亡くなられた所でもあり、大型の車両は通れない。この区間の道路改良を巡回・ふるさとバスいずれかの乗り入れを前提とし、ぜひ取り組んでいただきたいがどうか。</p> <p>(3) 市民の住居の状況と生活の動態を照合しながら路線道路の改良を加え、始良市全体のバス路線網を策定する時と考えるがいかがか。</p>	
5. 新福 愛子	<p>1. 生活困窮者自立支援制度について</p> <p>2. 早朝・夜間・休日保育について</p>	<p>施行から半年を迎えた新制度について、本市の現状の分析と課題を問う。</p> <p>(1) 自立相談支援事業 (2) 住居確保給付金の支給件数 (3) 就労準備支援事業 (4) 家計相談支援事業 (5) 就労訓練事業 (6) 子どもの学習支援 (7) 一時生活支援事業</p> <p>保護者の多様な就労形態に対する安心な子育て環境の整備として、早朝・夜間・休日保育の拡充は喫緊の課題で</p>	<p>市 長 教育委員長</p> <p>市 長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>3. 始良地区松原と加治木地区須崎を結ぶ新たな架橋について</p>	<p>ある。</p> <p>子育て支援のまちとして大きな期待を受け、若い世代の流入人口が増える本市でもニーズが高まるものと考えられる。今後の方向性を問う。</p> <p>始良地区松原から加治木地区須崎を結ぶ新たな架橋は、両地区の更なる発展と市民の交通利便性の向上や国道10号線の機能の補完など多くの課題解決にも繋がる。特に企業誘致が進んでいる須崎用地をはじめ、加治木地区への通勤・通学、加音ホールでの催し物への参加など、新たな架橋の早期建設を待望する声が以前にも増して高まっている。</p> <p>快適で暮らしやすいまちづくりのために、今後の計画を問う。</p>	<p>市 長</p>

